
スポットライト

水原 秋護

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スポットライト

【Nコード】

N3944A

【作者名】

水原 秋護

【あらすじ】

高篠一弥が初めて出会った『バンド』この出会いが一弥の高校生活を変える！…のか？？

第一話 入学式（前書き）

スポットライト連載開始です！

楽しんで読んで頂けたらありがたいです
ではどうぞ

第一話 入学式

ジリリリ…

ドス…

「眠い…今何時だ…7時50分…50分!!??」
うわっ!!??と叫びながら俺は起きた。

「なんで早く起こしてくれなかったんだよ!」

俺はあたふたと制服を着る。

「あら??もうすっかり起きてるのかと思ったわ」

食器を洗いながら母親は言った。

「…もういいや…朝飯は!」

「そこにあるでしょう??」

机の上にパンと目玉焼きがあった

「……よし!!行って来ます!」男の子はパンに目玉焼きを挟み、
鞆を持って玄関に走って行った

「ああ一弥!今何時から??」

母親は玄関に来ていた

「えつと9時から!…ほんじゃ行つてきます!」

俺の名前は『高篠一弥』今日から晴れての高校生
俺はなんでもかんでも飽きっぽい性格だ。だからやる事が全く見つ
からない、つまらない人間だ。だから高校生になつたらなにか生き
がいに感じる物に出会いたい。……なんて
って自己紹介してる場合じゃない!!急げ!!

キンコーンカーコン…

「はぁ…はぁ…つ…疲れた…」

走ったおかげなんとか遅刻にならずに済んだ。

「よっゝ一弥！今日は珍しく遅刻じゃないな」

笑いながら話しかけたこいつは『松田昴』だ。こいつとは小学生からの付き合いで一番の親友だ。

「まあさすがのお前でも入学式まで遅刻って事はないか」
肩をたたきながら俺に言った。

「当たり前だろ！……流石に入学式は遅刻はキツいだろ……」
なんだかんだ言ってるうちに入学式が始まった。

「これより入学式を始めます！」

これから俺の長い長い高校生活が始まる。

……のか??

第二話 軽音楽部

「俺ら同じクラスだな！」

松田はよかったよかった！といいながら俺の背中を叩きながら言った

「ケホツ…おい…痛いって…！」

「そんなわけでよろしく！」

笑いながら自分の席に戻って行った。

「ふう…」

これから何しよう？？てか…眠い……。

「…こんにちは…！」

な…なんだ…！！？？？

俺は何が起きたか分からなかった。わかったとすれば耳が痛い事だった。

「な…なんだよ…君は…」俺はもちろん不機嫌そうに言った

「私は…藤森みやか！よろしく…！」

呆気にとられて

「よ…よろしく」

と言ってしまった。

「ところで君の名前は？？」

「高篠…高篠一弥だ」

「高篠君ね！わかったわ！……あつ先生が来たみたいね」

じゃねーと言って自分の席に座った。なんか俺には嵐が過ぎ去った感じがした。

「なんだっ たんだよ…」

「ほーら、席に座った…！座った…！…点呼取るぞ。それと呼ばれたやつは自己紹介もやってくれ」

また自己紹介…面倒なあ…！まあみんなにはしてないから別にいいか

先生が点呼を呼びそして生徒は自己紹介をしている

「はい次高篠一弥」

俺の番か…

「はい…高篠一弥です…んで先生他になんか言うんですか??」

俺はみんなの自己紹介を全然聞いてなかったからわからなかった

「おゝ聞いてなかったのか!…まあ特になんもないんだが、入りたい部活など言ってもいいぞ」

「入りたい部活はありません」

それを言い終えて俺は席に座った。

『ふわあ…ね…眠い…』心の中の俺がそう言った。

「次、藤森みやか」

藤森は

「はい!!」

と元気良く返事をした。

俺はその返事でまた眠りから妨げられた。

「藤森みやかです!入りたい部活は軽音楽部です!」

軽音楽部??なんだその部活は??

「これからよろしくお願いしますね!」そう言い終えて藤森は席に座った。

まあ興味ないな…って次は昴の自己紹介か

「松田昴!入りたい部活は軽音楽部!よろしく!!」

昴はご満悦そうに席についた。

昴も軽音楽に入るのか…って軽音楽ってなんだ!!??

「よし自己紹介は以上だな。おっと俺の自己紹介がまだだったな」

先生が自分の名前が『上田』だとか昔はやんちゃだったとか言ってたけど俺には全然関係なかった。

その時の俺は軽音楽の事を考えていた。

キンコーンカーコン…

「よし終了！号令…高篠！お前やれ！」

先生はにつこりしながら俺に言った。

「ええっ！！??」

「お前は話を聞いてなかったろ！」

確かに…なにも言い返すに

「起立…礼…」

だからしょうがなく号令を引き受けた。

俺は号令を終えた後昂の所にすぐさま駆け寄った。

「な…軽音楽ってなんだ??」

そう。俺はづくにこの答えが欲しかった。

「お前、軽音楽知らないのか??」知らないから聞いてるんだろう

！しかも笑いながら言うな！

「そうだよ！知らないよ！」

「こら！威張るな！……まあ明日になればいやでもわかるんじゃないか??」

明日??何故??

「明日??」

俺はまた心に思った事を昂に言った。

「そう！明日明日！」

そんな俺とはうらはらにうきうき気分んで昂は答えた。

「わかったよ！明日だな！」

しょうがない…明日まで待つしかないか…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3944a/>

スポットライト

2010年10月24日07時59分発行